

動物愛護に関するアンケート調査結果

1 調査の概要

(1) 調査目的

動物愛護管理行政の推進のため策定する「いしかわ動物愛護管理推進計画2008(仮称)」に県民の意見を反映するため、調査を実施した。

(2) 実施主体

石川県

(3) 調査時期

平成19年5月8日から5月31日まで

(4) 調査対象

県政モニター、事業所、福祉・医療施設の従事者、保育所・学校児童の保護者、公民館利用者など約1,000人（他にインターネットによる回答者）

(5) 調査方法

- ① 県政モニターにアンケート用紙を郵送し、回答を郵送により回収
- ② 事業所、各種団体等に調査を依頼し、アンケート用紙の配布、回収
- ③ 県のホームページにアンケートを掲載し、一般県民からの回答

(6) 回答数

994人（回収率*：93.6%） *：アンケート用紙による回収率

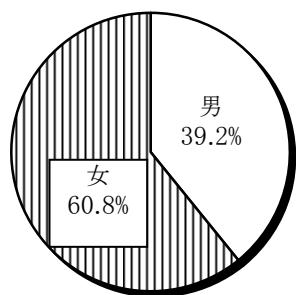
動物愛護に関するアンケート調査結果

(1) 回答者の属性

① 性別と年齢

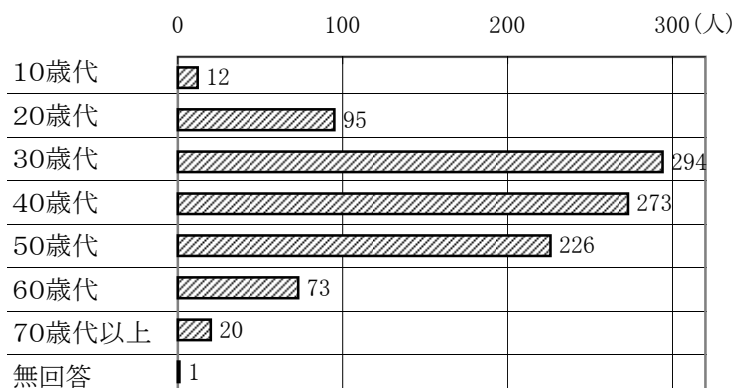
アンケート回答者は994名で、性別は男性390名（39.2%）、女性604名（60.8%）、となっています。

回答者の年齢は、30歳代が294人（29.6%）で、最も高くなっています。



(回答者994人)

回答者の男女割合

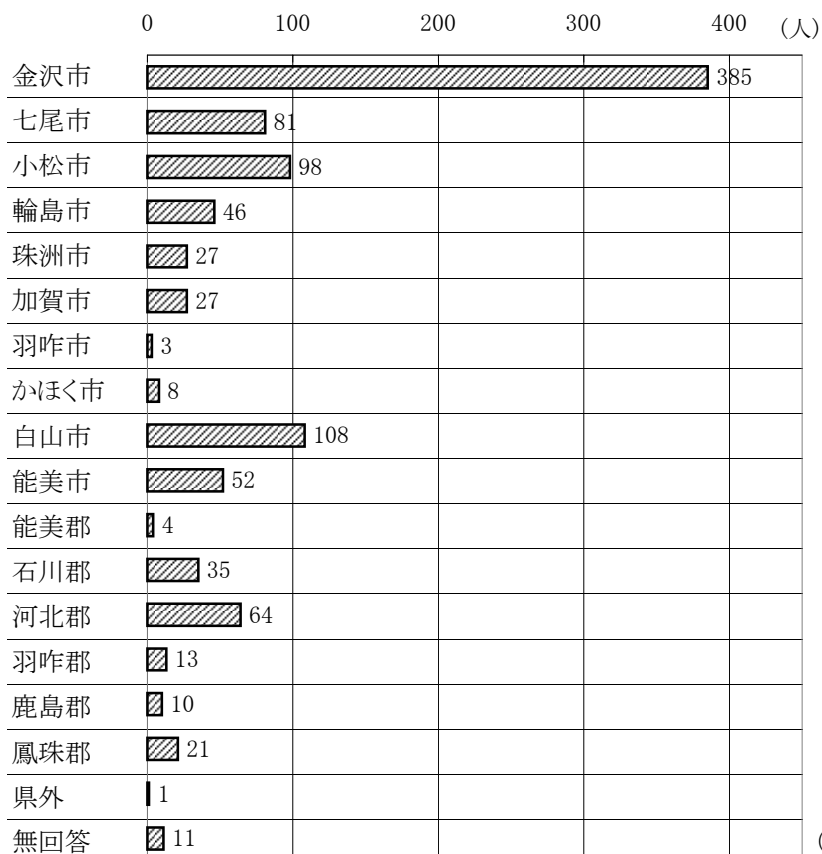


(回答者994人)

回答者の年齢

② 居住地

回答者の居住地は、金沢市が385人（38.7%）、白山市108人（10.9%）、小松市98人（9.9%）の順となっています。

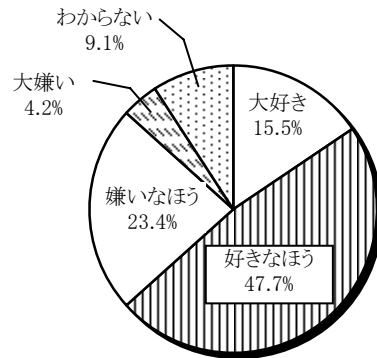


(回答者994人)

(2) ペットの飼育状況

① ペット飼育の好き嫌い

ペットを飼うのが好きか嫌いか聞いたところ、「好き」とする者の割合が63.2%（「大好き」15.5%、「好きなほう」47.7%）、「嫌い」とする者の割合が27.6%（「嫌いなほう」23.4%、「大嫌い」4.2%）となっています。



(回答者991人)

② 世帯構成とペット飼育の有無

世帯構成とペットの飼育について聞いたところ、二世帯世帯（親と子）で暮らしている世帯の飼育率が最も高くなっています。

世帯構成	回答者(人)	飼っている(人)	飼っていない(人)	飼育率
一人世帯	92	22	70	23.9%
一世代世帯	139	45	94	32.4%
二世帯世帯	486	181	305	37.2%
三世帯世帯	258	90	168	34.9%
その他	11	4	7	36.4%
計	986	342	644	34.7%

③ 住環境と飼育の有無

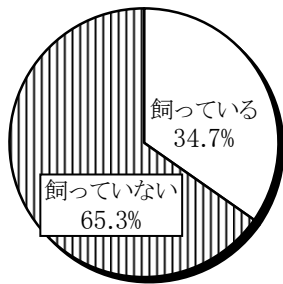
住居の形態別のペットの飼育率は、一戸建てで38.8%、集合住宅で10.5%となっており、一戸建てで、高くなっています。

住環境	回答者(人)	飼っている(人)	飼っていない(人)	飼育率
一戸建て	850	330	520	38.8%
集合住宅	143	15	128	10.5%
計	993	345	648	34.7%

④ ペットの飼育の有無と飼っているペットの種類

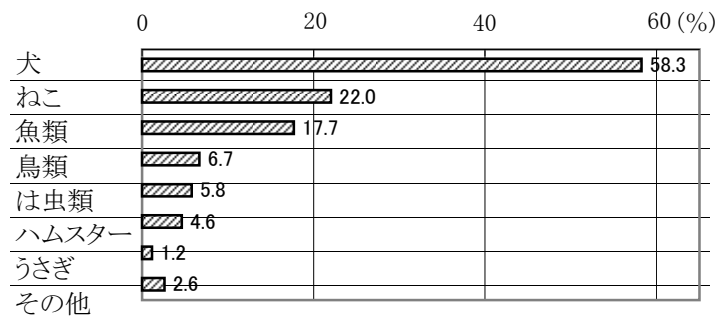
家庭で犬やねこなど、ペットを飼っているかどうか聞いたところ、「飼っている」と答えた者の割合が34.7%、「飼っていない」と答えた者の割合が65.3%となっています。

ペットを「飼っている」と答えた人に、どんな動物か聞いたところ、「犬」を挙げた者の割合が58.3%と最も高く、以下、「ねこ」(22.0%)、「魚類」(17.7%)などの順となっており、内閣府大臣官房政府広報室が実施した「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月)の全国状況と同様の傾向がみられます。



(回答者994人)

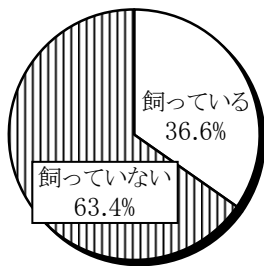
ペットを飼育している割合



(回答者345人:複数回答有)

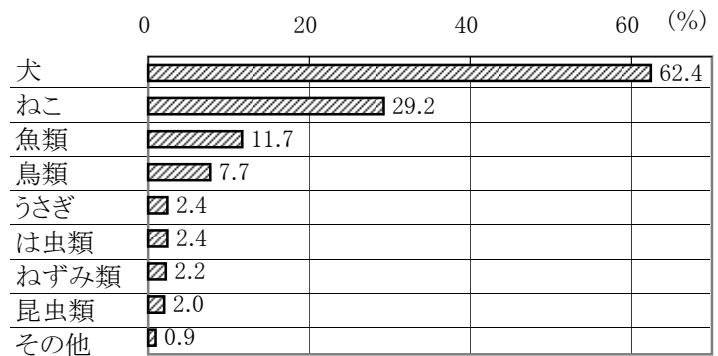
飼育しているペットの種類

参考: 全国状況(内閣府大臣官房政府広報室「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月))



(回答者2,202人)

ペットを飼育している割合



(回答者806人:複数回答有)

飼育しているペットの種類

⑤ ペットを飼っている理由

ペットを「飼っている」と答えた人に、そのペットを飼っている理由を聞いたところ、「潤いや安らぎを与えてくれるから」を挙げた者の割合が56.0%と最も高く、以下、「家族が動物好きだから」(44.6%)、「自分が動物好きだから」(38.4%)、「子どもが心豊かに育つから」(30.7%)などの順となっています。



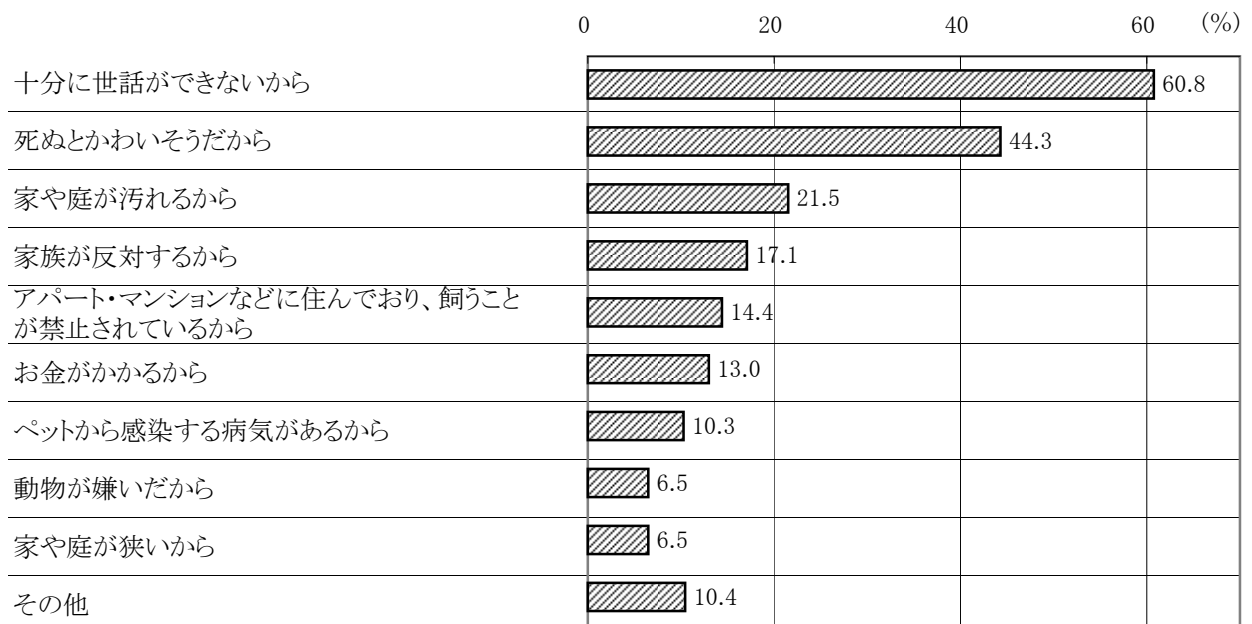
(回答者337人:複数回答有)

※その他(「子どもにせがまれた」(2.1%)、「譲り受けた」(1.5%)、「拾った」(1.2%)等など)

⑥ ペットを飼わない理由

ペットを「飼っていない」と答えた人に、ペットを飼わない理由を聞いたところ、「十分に世話ができないから」を挙げた人の割合が58.4%と最も高く、以下「死ぬとかわいそうだから」(42.6%)、「家や庭が汚れるから」(20.7%)、「家族が反対するから」(16.4%)、「アパート・マンションなどに住んでおり、飼うことが禁止されているから」(13.8%)、などの順となっています。(複数回答、上位5項目)

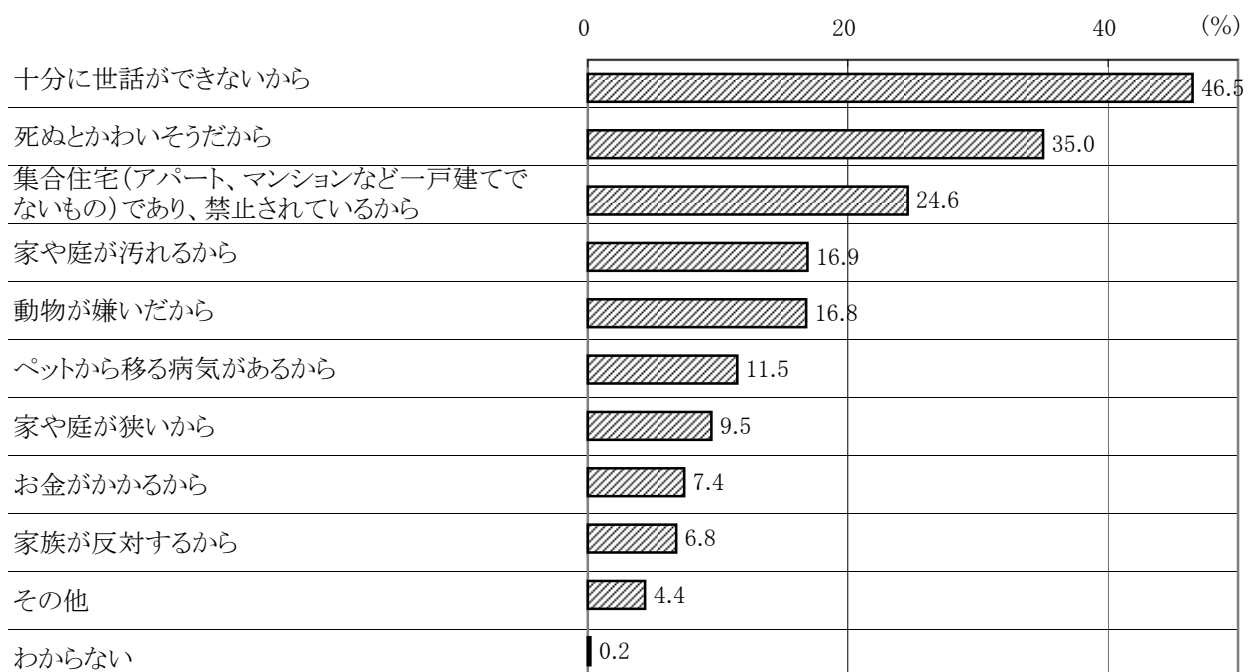
内閣府大臣官房政府広報室が実施した「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月)の全国状況でも、ほぼ同様な傾向がみられます。



(回答者632人:複数回答有)

※その他(「家族の中にアレルギーの人がいる」(3.4%)、「子どもが小さい」(0.8%)、「食品の仕事をしている」(0.8%)など)

参考: 全国状況(内閣府大臣官房政府広報室「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月))



(回答者1,396人:複数回答有)

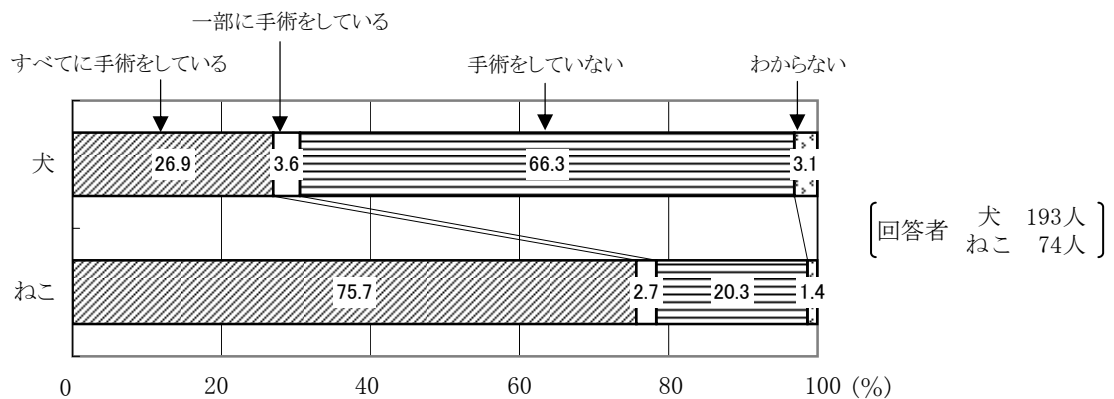
(3) 犬、ねこの適正飼養について

① 犬、ねこの不妊去勢手術の実施状況

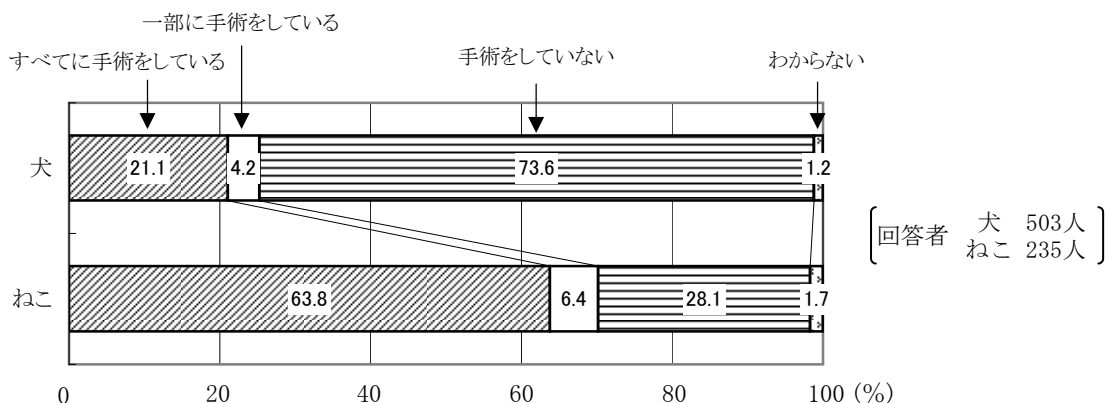
犬またはねこを「飼っている」と答えた人に、不妊または去勢手術をしているか聞いたところ、犬については、「すべての犬に手術をしている」と答えた人の割合が26.9%、「一部の犬に手術をしている(一部の犬は手術していない)」と答えた人の割合が3.6%、「手術をしていない」と答えた人の割合が66.3%となっています。

ねこについては、「すべてのねこに手術をしている」と答えた人の割合が75.7%、「一部のねこに手術をしている(一部のねこは手術していない)」と答えた人の割合が2.7%、「手術をしていない」と答えた人の割合が20.3%となっています。

内閣府大臣官房政府広報室が実施した「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月)の全国状況では、犬の不妊去勢について「手術をしていない」と答えた人の割合が73.6%となっており、本県の調査結果と、ほぼ同様な傾向がみられます。



参考: 全国状況(内閣府大臣官房政府広報室「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月))

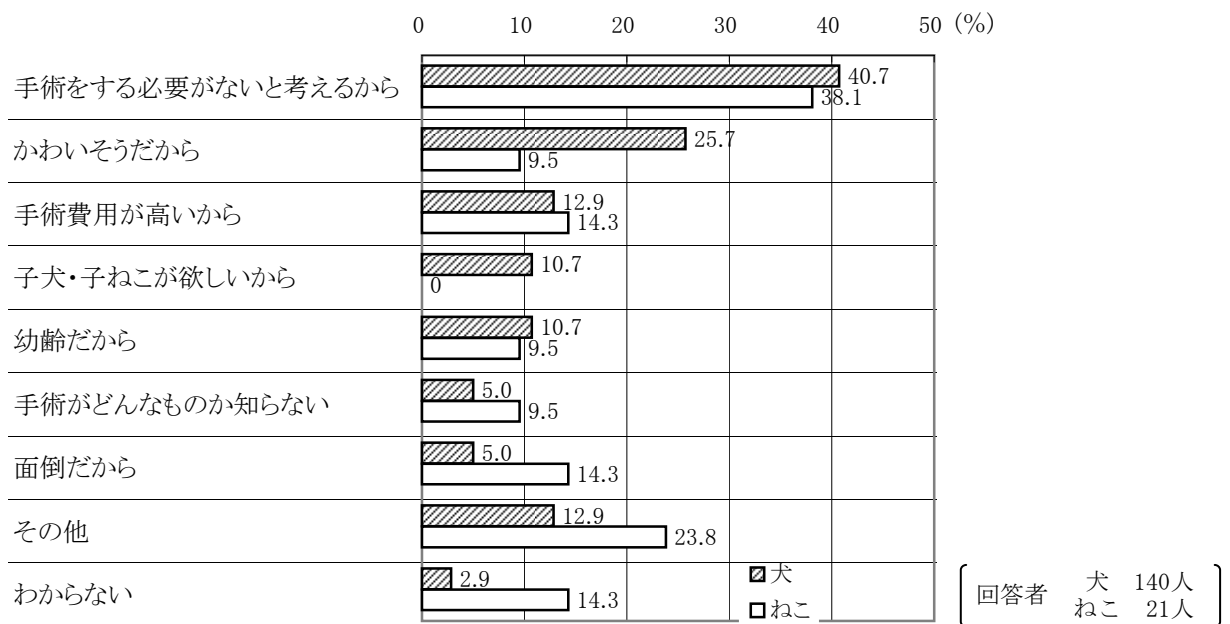


② 手術をしていない理由

犬またはねこを「飼っている」と答えた人で、不妊または去勢手術を「していない」または「一部していない」と答えた人に不妊・去勢手術をしていない理由を聞いたところ、犬については、「手術する必要がないと考えるから」を挙げた人の割合が40.7%と最も高く、次いで、「かわいそうだから」(25.7%)などの順となっています。(複数回答、上位2項目)

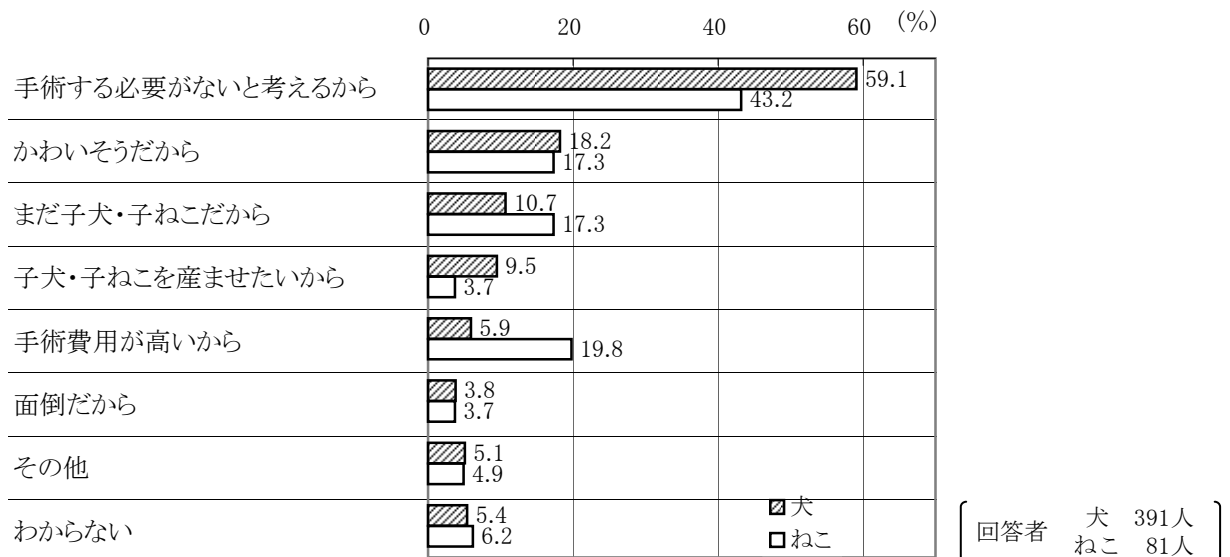
ねこについては、「手術する必要がないと考えるから」を挙げた人の割合が38.1%と最も高く、次いで、「手術費用が高いから」(14.3%)及び「面倒だから」(14.3%)などの順となっています。(複数回答、上位2項目)

内閣府大臣官房政府広報室が実施した「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月)の全国状況とほぼ同様の傾向がみられます。



※その他(犬については「室内で飼育」(2.9%)、「オスだから」(1.5%)など。ねこについては「オスだから」(5.8%)など。)

参考: 全国状況(内閣府大臣官房政府広報室「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月))

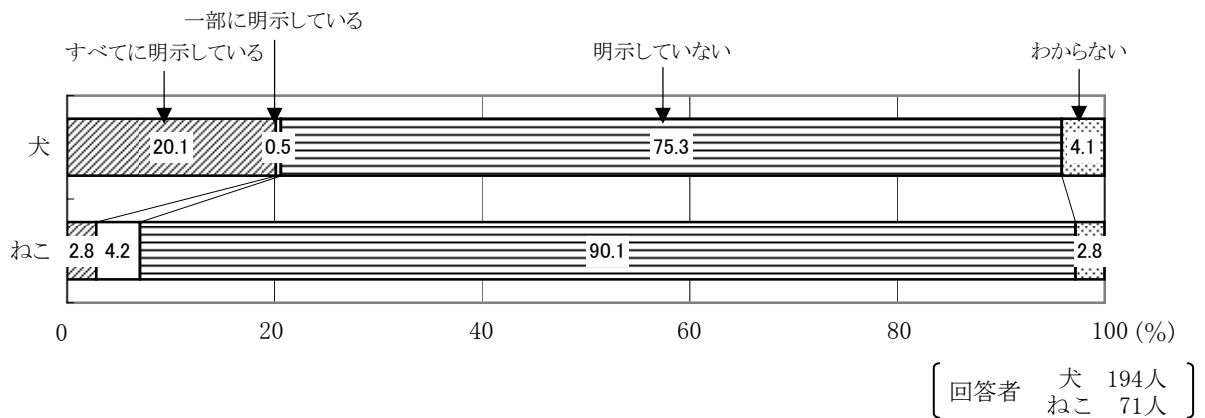


③ 犬、ねこの飼い主の明示について

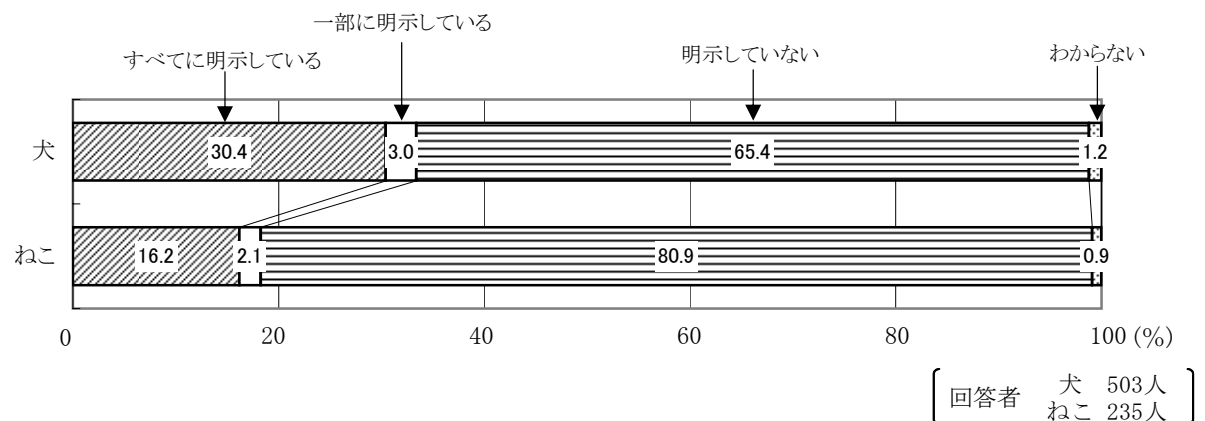
犬またはねこを「飼っている」と答えた人に、所有者の氏名、住所などがわかるように名札や首輪、マイクロチップなどを装着し、飼い主が誰であるかわかるように明示しているか聞いたところ、犬については、「すべての犬に明示している」と答えた人の割合が20.1%、「一部の犬に明示している(一部の犬は明示していない)」と答えた人の割合が0.5%、「明示していない」と答えた人の割合が75.3%となっています。

ねこについては、「すべてのねこに明示している」と答えた人の割合が2.8%、「一部のねこに明示している(一部のねこは明示していない)」と答えた人の割合が4.2%、「明示していない」と答えた人の割合が90.1%となっています。

内閣府大臣官房政府広報室が実施した「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月)の全国状況では犬については、「すべての犬に明示している」と答えた人の割合が30.4%、ねこについては、「すべてのねこに明示している」と答えた人の割合が16.2%となっており、全国状況に比べ、明示している割合が低くなっています。



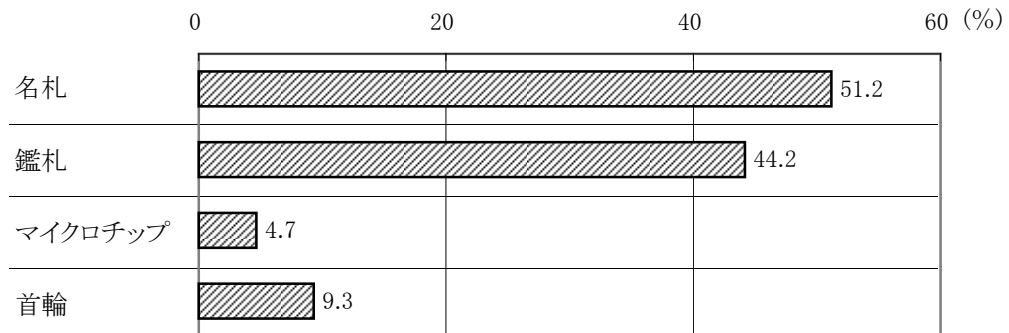
参考: 全国状況(内閣府大臣官房政府広報室「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月))



④ 所有者明示方法

犬、ねこの所有者明示の有無について、「すべてに明示している」及び「一部に明示している(一部は明示していない)」と答えた人に、所有者の明示方法について聞いたところ、犬については、「名札」と答えた人の割合は51.2%、「鑑札」と答えた人が44.2%、「マイクロチップ」と答えた人が4.7%となっています。

ねこについては、明示していると回答した5人全員が「名札」と答えています。



(回答者43人:複数回答有)

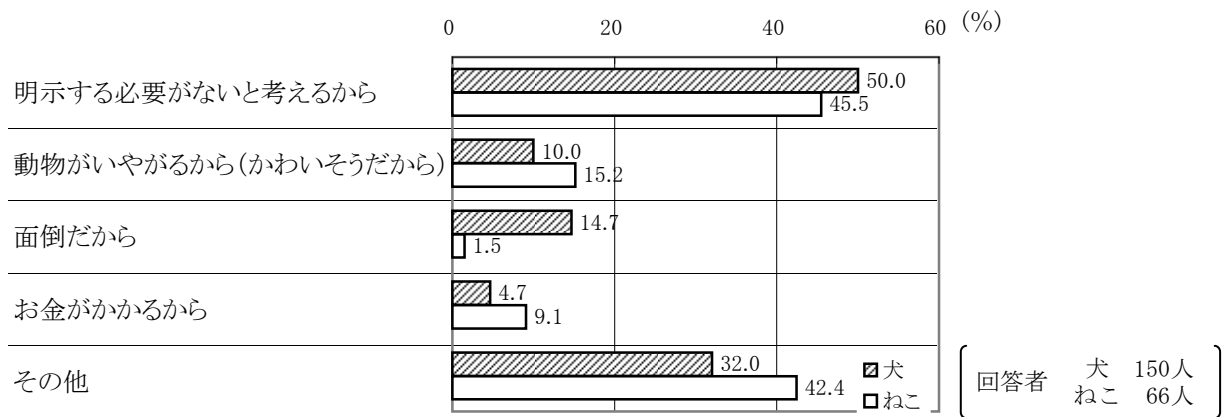
犬の所有者明示方法

⑤ 所有者明示をしていない理由

犬またはねこを「飼っている」と答えた人で、所有者明示を「していない」または「一部していない」と答えた人に、明示をしていない理由は何か聞いたところ、犬については、「明示する必要がないと考えるから」を挙げた人の割合が50.0%と最も高く、以下、「面倒だから」(14.7%)、「動物がいやがるから(かわいそうだから)」(10.0%)、などの順となっています。(複数回答、上位3項目)

ねこについては、「明示する必要がないと考えるから」を挙げた人の割合が45.5%と最も高く、「動物がいやがるから(かわいそうだから)」(15.2%)、などの順となっています。(複数回答、上位2項目)

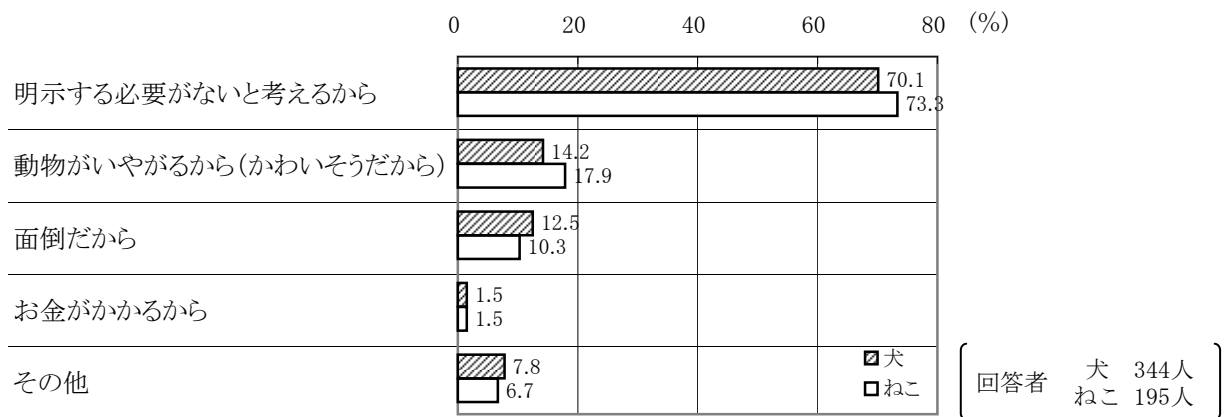
内閣府大臣官房政府広報室が実施した「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月)の全国状況では「明示する必要がないと考えるから」を挙げた人の割合は、犬については、70.1%、ねこについては、73.3%となっており、全国状況の方が明示する必要がないと考える割合が高くなっています。



※ その他(犬については、「室内で飼っている」(10.0%)、「放さない」(5.3%)、「知らなかった」(2.6%)、「家に戻って来る」(2.0%)など。

ねこについては「外に出さない」(21.2%)、「マイクロチップを知らなかった」(7.6%)など)

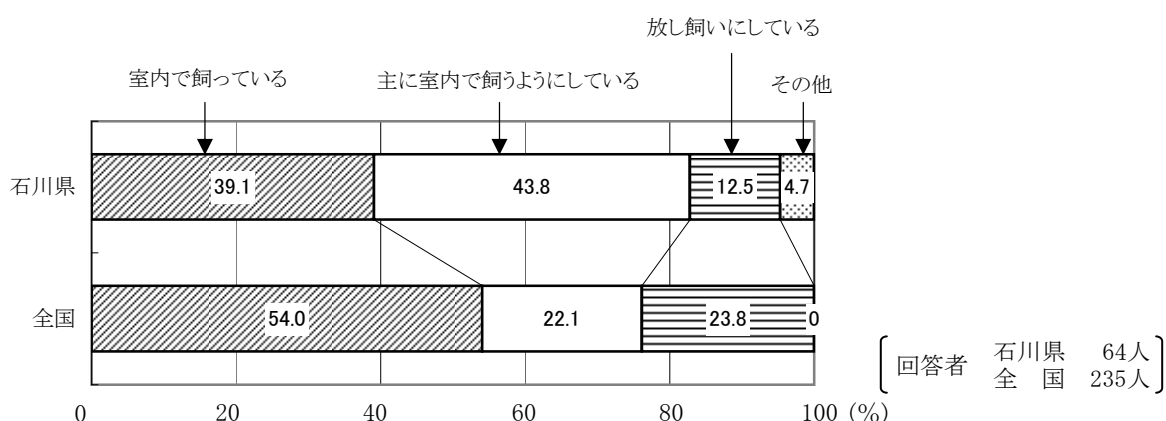
参考: 全国状況(内閣府大臣官房政府広報室「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月))



⑥ ねこの飼育状況

ねこを「飼っている」と答えた人に、どのように飼っているか聞いたところ、「室内で飼っている」と答えた人の割合が39.1%、「主に室内で飼うようにしている」と答えた人の割合が43.8%、「放し飼いに行っている」と答えた人の割合が12.5%となっています。

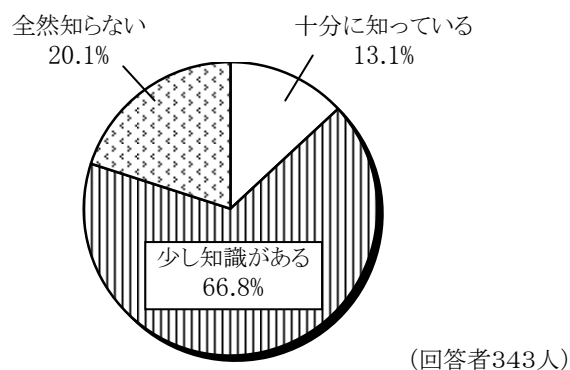
内閣府大臣官房政府広報室が実施した「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月)の全国状況では「室内で飼っている」と答えた人の割合が54.0%、「主に室内で飼うようにしている」と答えた人の割合が22.1%、「放し飼いに行っている」と答えた人の割合が23.8%となっており、全国状況の比べ「室内で飼っている」と回答した割合が低くなっています。



(4) 飼い主の動物の病気の知識

① 動物の病気について

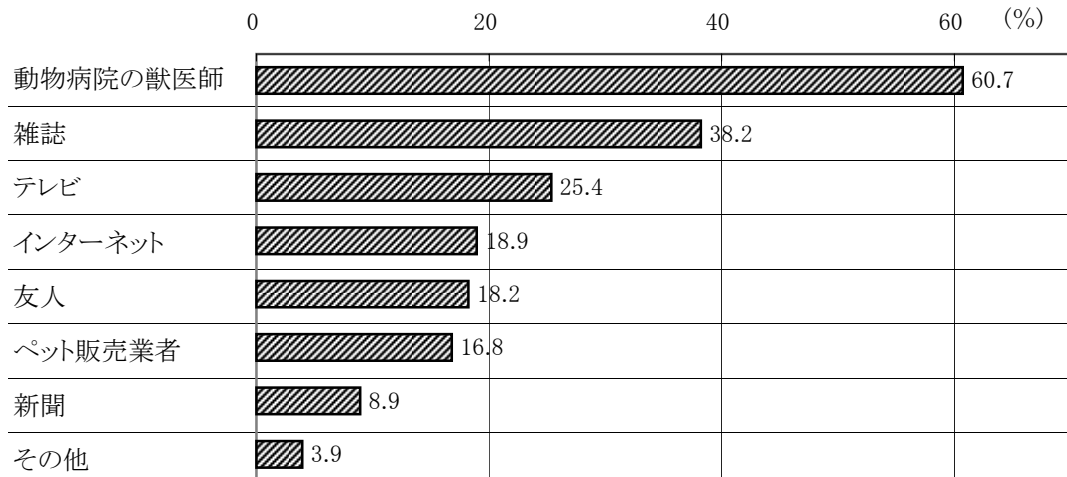
ペットを「飼っている」と答えた人に、動物の病気の知識について聞いたところ、「十分に知っている」と答えた人の割合が13.1%、「少し知識がある」と答えた人の割合が66.8%、「全然知らない」と答えた人の割合が20.1%となっています。



② 動物の病気情報入手先

動物の病気について「知っている」または「少し知識がある」と答えた人に、情報の入手先を尋ねたところ、「動物病院の獣医師」と答えた人の割合が60.7%、「雑誌」と答えた人の割合が38.2%、「テレビ」と答えた人の割合が25.4%となっています。

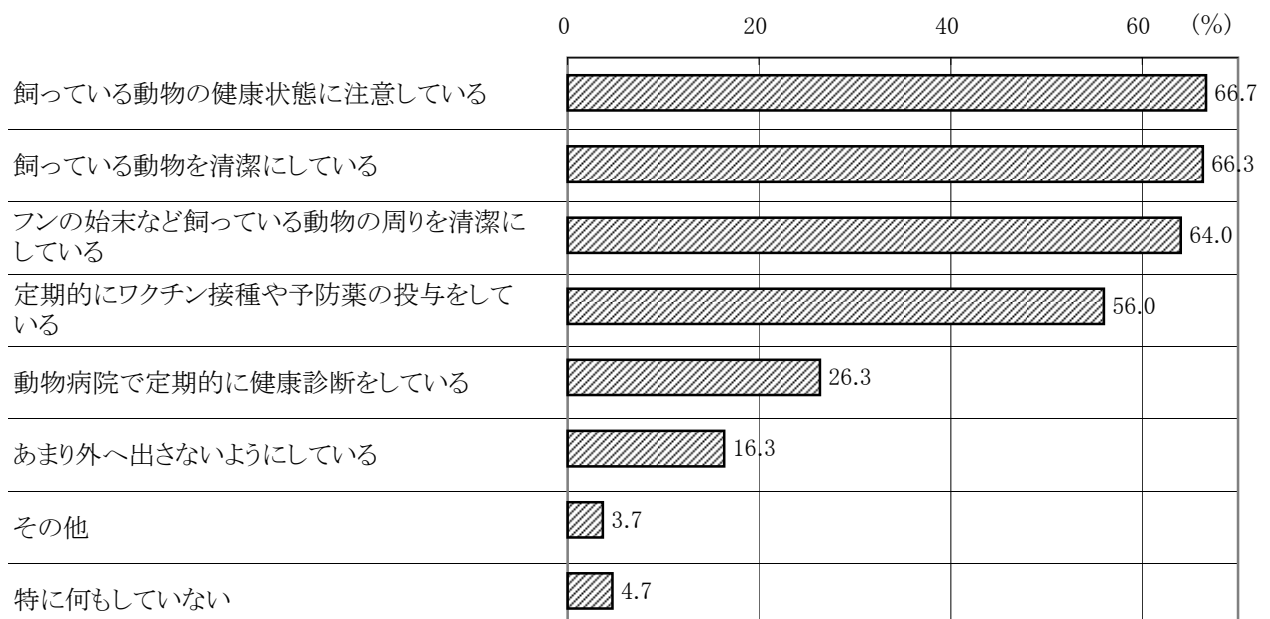
(複数回答、上位3項目)



(回答者280人:複数回答有)

③ 感染症予防

動物の病気について「知っている」または「少し知識がある」と答えた人に、実施している感染予防法を尋ねたところ、「飼っている動物の健康状態に注意している」と答えた人の割合が66.7%、「飼っている動物を清潔にしている」と答えた人の割合が66.3%、「フンの始末など飼っている動物の周りを清潔にしている」と答えた人の割合が64.0%となっています。(複数回答、上位3項目)



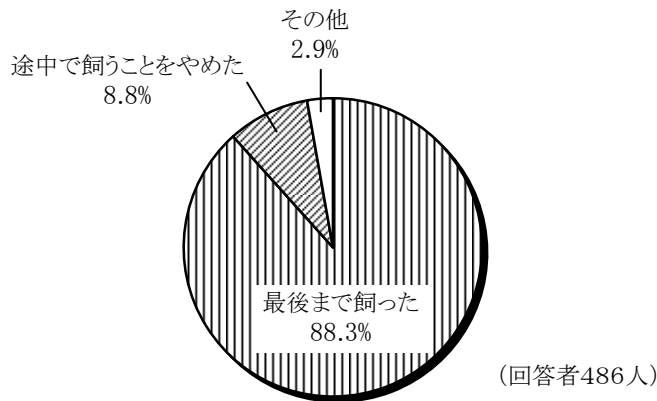
(回答者300人:複数回答有)

※その他(「食事、栄養に気を遣う」(1.1%)、「散歩をする」(1.1%)など)

(5) 動物の終生飼養

① 終生飼育をした人

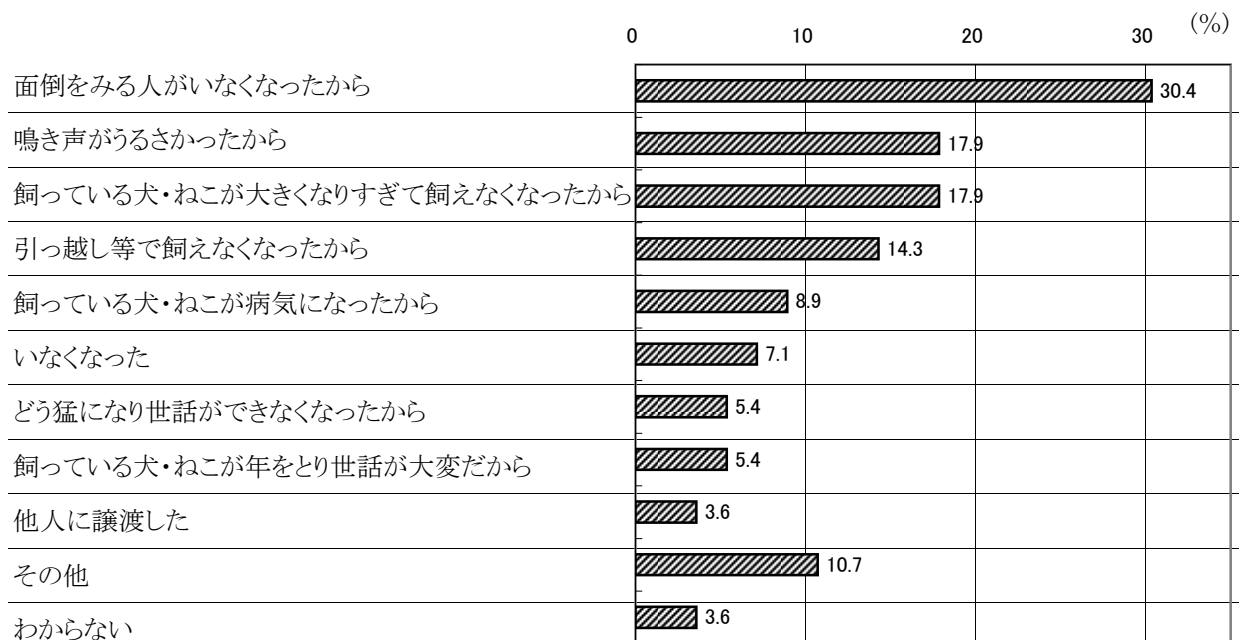
今までに犬・ねこを飼った経験のある者に、最後まで飼養(終生飼養)したか聞いたところ、「最後まで飼った」と答えた人の割合が88.3%、「途中で飼うことをやめた」と答えた人の割合が8.8%となっています。



※その他(「行方不明になった」(1.2%)、「交通事故死」(0.6%)など)

② 飼育をやめた理由

犬・ねこを「途中で飼うことをやめた」と答えた人に、飼育をやめた理由について聞いたところ、「面倒をみる人がいなくなったから」と答えた人の割合が30.4%、「鳴き声がうるさかったから」及び「飼っているいる犬・ねこが大きくなりすぎて飼えなくなったから」と答えた人の割合がそれぞれ17.9%、「引っ越し等で飼えなくなったから」と答えた人の割合がそれぞれ14.3%となっています。(複数回答、上位4項目)



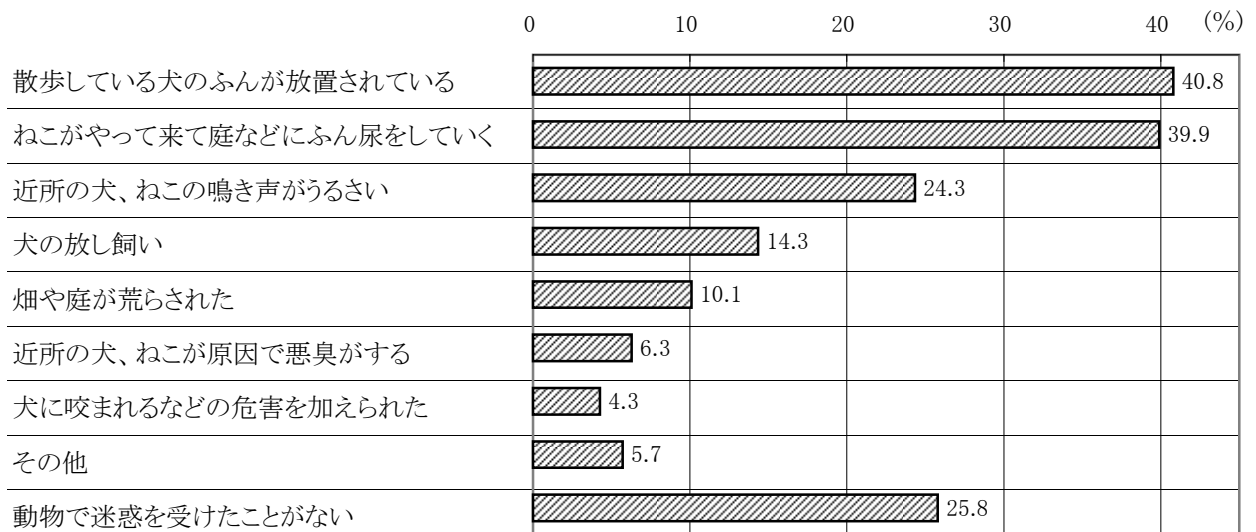
(回答者56人:複数回答有)

(6) ペット飼育による迷惑

① ペットによる迷惑を受けた経験

回答者全員に過去3年間に、犬、ねこで迷惑を受けたことがあるか聞いたところ、迷惑を受けた経験がある人は74.2%で、内容は「散歩している犬のふんが放置されている」を挙げた人の割合が40.8%と最も高く、以下、「ねこがやって来てふん尿をしていく」(39.9%)、「近所の犬、ねこの鳴き声がうるさい」(24.3%)、「犬の放し飼い」(14.3%)などの順となっています。(複数回答、上位4項目)

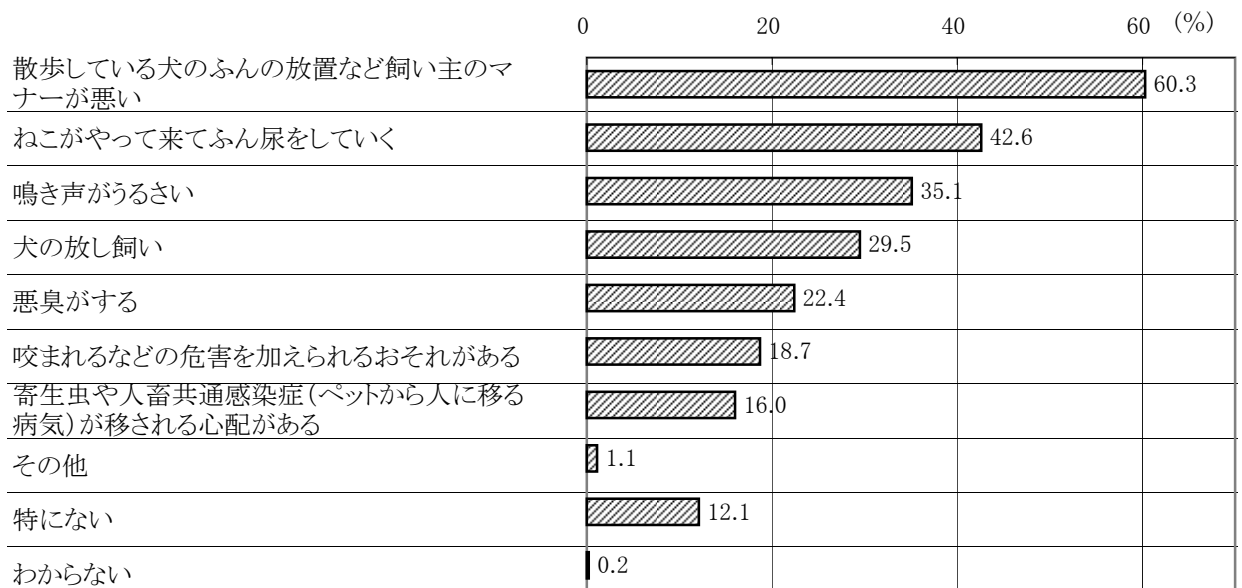
内閣府大臣官房政府広報室が実施した「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月)の全国状況と同様の傾向がみられます。



(回答者892人:複数回答有)

※その他(「ねこが家に入ってくる」(1.7%)、「野良ねこが子どもを産んだ」(0.8%)、「ねこが車の上に乗る」(0.8%)など)

参考: 全国状況(内閣府大臣官房政府広報室「動物愛護に関する世論調査」(平成15年7月))

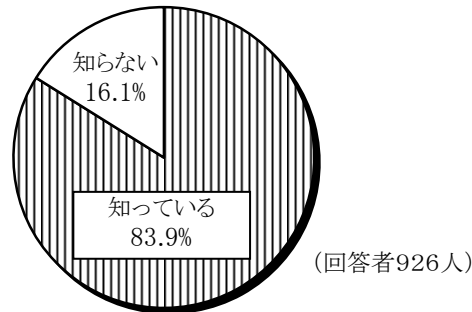


(回答者2,202人:複数回答有)

(7) 犬、ねこの引取り費用の有料化

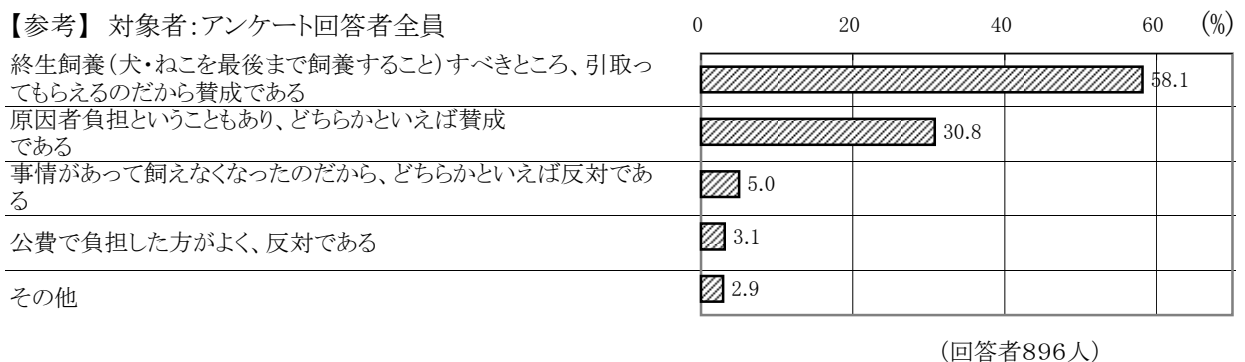
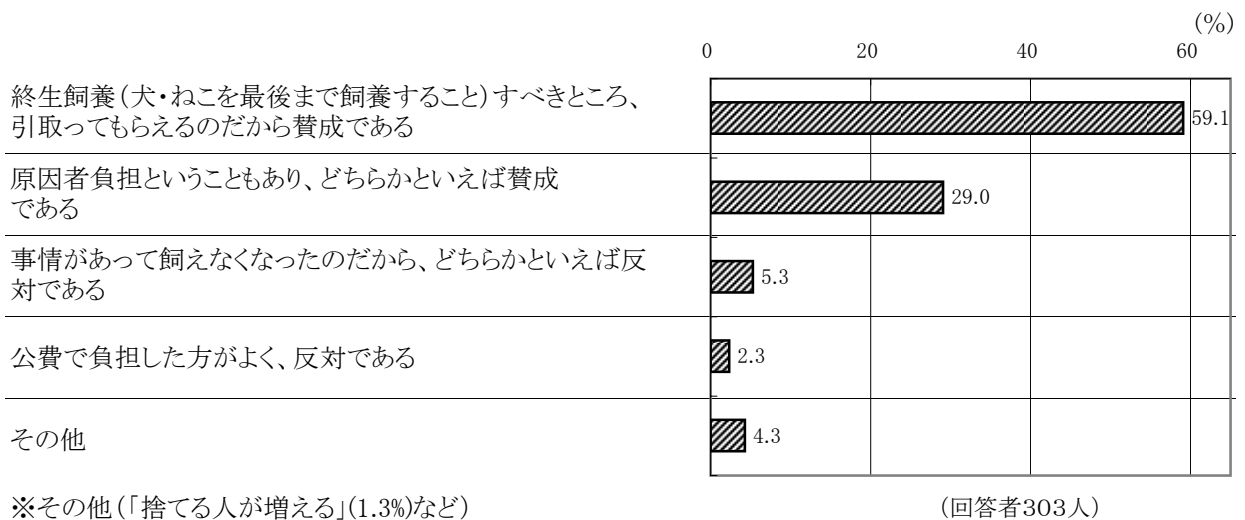
① 犬、ねこの保健所の引取

アンケート回答者全員に、飼えなくなった犬、ねこを保健所で引き取ることを知っているか聞いたところ、「知っている」と答えた人の割合が83.9%、「知らない」と答えた人の割合が16.1%となっています。



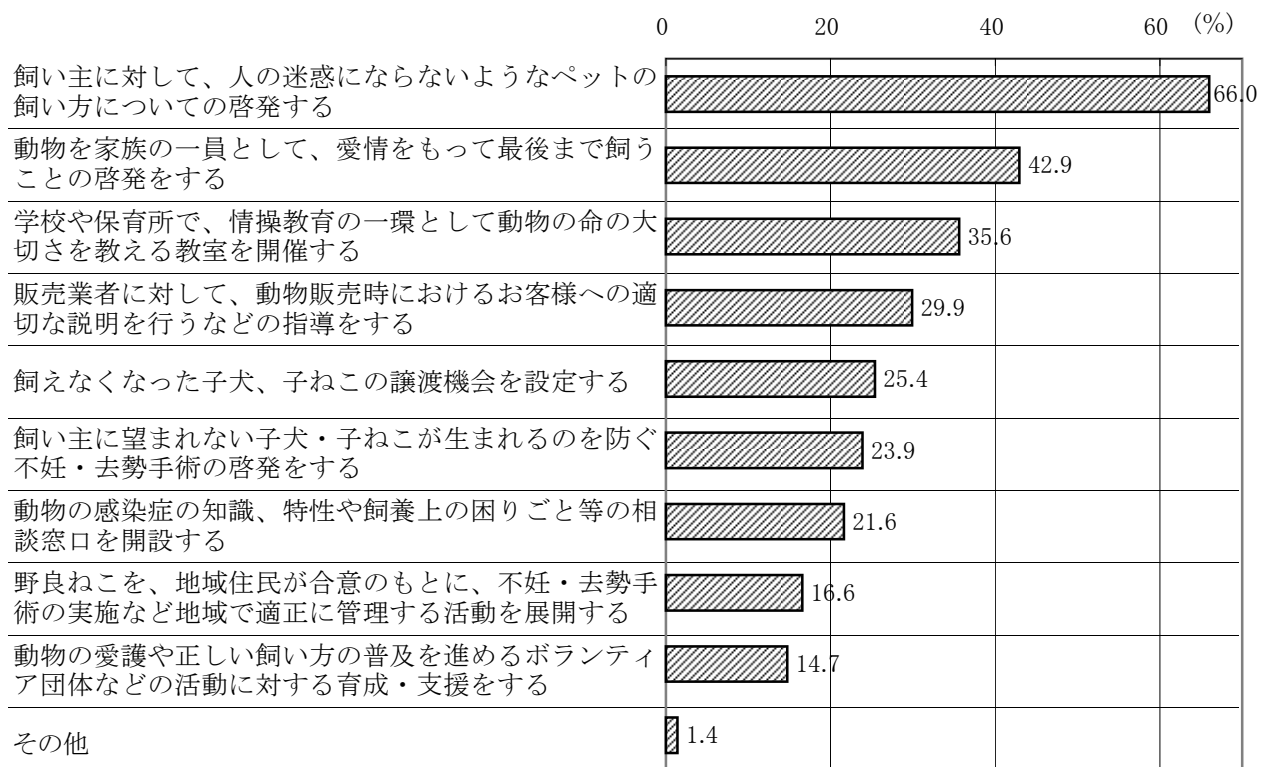
② 犬、ねこの引取有料化について

家庭でペットを飼っていると答えた人に、飼い主が引取り費用を負担することについて聞いたところ、「賛成」とする人の割合が88.1%（「賛成」59.1%、「どちらかといえば賛成」29.0%）、「反対」とする人の割合が7.6%（「どちらかといえば反対」5.3%、「反対」2.3%）となっています。



(8) 今後の取組

アンケート回答者全員に、人と動物が共生する社会を築くために、今後どのように取り組めばよいか聞いたところ、「飼い主に対して、人の迷惑にならないようなペットの飼い方について啓発する」を挙げた人の割合が66.0%と最も高く、以下、「動物を家族の一員として、愛情をもって最後まで飼うことの啓発をする」(42.9%)、「学校や保育所で、情操教育の一環として動物の命の大切さを教える教室を開催する」(35.6%)、「販売業者に対して、動物販売時におけるお客様への適切な説明を行うなどの指導をする」(29.9%)、「飼えなくなった子犬、子ねこの譲渡機会を設定する」(25.4%)などの順となっています。
(複数回答、上位5項目)

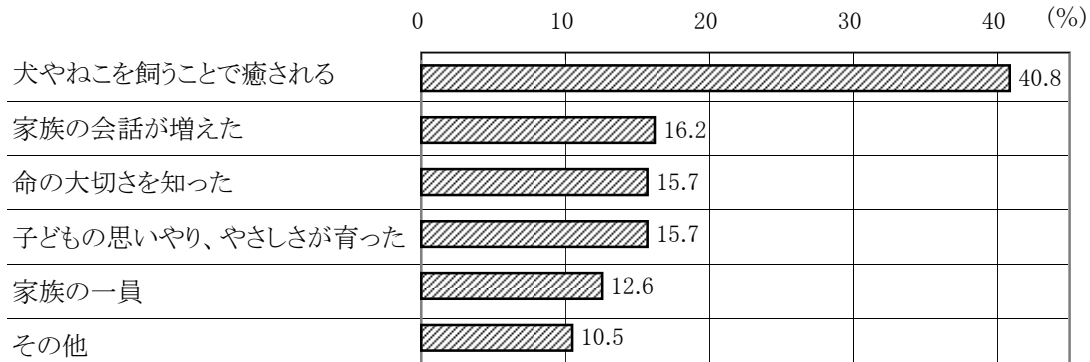


(回答者929人:複数回答有)

※その他(「飼い主の免許制」、「適正な飼育方法を子どもから大人までしつける」など)

(9) ペット飼育のメリット（自由記載）

ペットを飼うことによって良かったことについて、自由記載により聞いたところ、「犬やねこを飼うことで癒される、和む、安らぐ」が40.8%、「家族の会話が増えた」が16.2%、「命の大切さを知った」及び「子どもの思いやり、やさしさが育った」がそれぞれ15.7%、「家族の一員」が12.6%などの回答がありました。



(記載者191人:複数記載有)

自由記載 — 抜粋 —

大腸ガンの摘出手術を受けた夫が、退院直後に犬を飼うことを切望したため、その後の再発が心配される中、やむなく飼った犬ですが、その後の末期治療の続く中、心のケアとなりました。最後の入院を前に、犬に対し「お別れ」と最後まで面倒を見てやれない無念さを語っていた姿を想い、代わりに大切にしている日々です。

ふんの後始末等できるだけ他人に迷惑にならないようにして飼い、家族の心の「まとめ役」となっています。

雨の日、風の日、雪道と毎朝夕の散歩は楽な日ばかりではありませんが、それに代る「癒しの効果」はあると思います。(女性)

親犬の出産を通じて、子犬の誕生、親犬の病気の死などを子供が全て受け入れ、親子で命の大切さ尊さを知ることができた。家族同然の犬が死んだときはみんなで泣いた。

子犬の誕生の時はみんなで徹夜で見守り、喜んだ。など、家族の絆も強くなったようです。

(無責任な人が多すぎます。とても悲しいことですね。散歩中注意しても逆ギレされることがよくあります。)(女性)

子供の頃、両親共に働いており、学校から帰るとねこがむかえてくれたのでさみしさがまぎれた。ねこのお産を見た。赤ちゃんが産まれる自然のしくみと小さな子ねこのかわいさを知った。親ねこの子ねこに対する深い愛情を知った。ねこの良い思い出がたくさんある。自分の子供にもそんな思いをさせてやりたいが家族が反対しているのでできない。また、しつけできるか心配である。お金もかかるのでできない。(女性)

家族の中で共通の話題が増える。外出しがちな子供が家に早くかえってくるようになった。(女性)

ペットがいるということは、子供にとっては情操豊になると思うし、大人にとってもいやしになると思う。

私自身も小さいときからねこを飼っており、そのねこが出産し親になり老いて死んでいく。また、中には傷害のあるねこがうまれたりすることや、事故で傷害を持つことになってしまったため介護が必要になったりの中で、生死、生きること、死ぬことを身近でみてこれたことは、とても人生勉強になっていると思います。（女性）

顔を見ているだけで安らぎを与えてくれます。家族の一員です。

不幸な動物たちを増やさないためにも飼い主や動物販売業者が責任と自覚をもって、動物たちに接して行けるようになってほしいです。（女性）

ペットに関することで、会話がはずみました。

最後、寝たきりになった時、延命を含め命についての話し合いもでき、よかったです。（女性）

多くのペットは人間よりも生命が短く、誕生から死亡まで自分の目で見ることになる。生命の尊さ、愛情の注ぎ方などをペット飼うことによって学んだと思う。（男性）

家族の共通の話題として、ペットがいます。結果として家族の会話も増え、団らんの機会が増えました。ペットがいることで外出することも多く、いろんな場面もありますが楽しい日々です。（男性）

子供の心の支えであった。

ペットを通して家族間の会話の機会が多くなった。

死ぬまで面倒を見ることができ、命について親子共に思いを深めることができた。（女性）

何より存在自体が癒しです。ペットを通じて家族の会話も増え、きちんと面倒を見ることも覚えます。

「死」に対してもいずれ、死ぬからいやだ、という方もいますが「死」を見せるのはとても大切なことだと思います。

いろいろなことを考えるいい機会になります。

優しく扱うことも覚え、大変なことも理解し、いいことだと思います。「かわいい」だけではないことがわかるはずです。人間も動物も。（女性）

私は動物が大好きですが犬は苦手でした。主人が犬好きで飼うことになりましたがいつの間にか世話は全て私がすることになり、かなり最初はとまどいました。でも、1ヶ月、2ヶ月、半年とたつうち苦手だったはずが今は家族の一員として大好きになっていました。二人の子供たちも動物への思いやりがついてきたような気がします。また、心が安らぐ場として犬を通して皆の会話も増えました。ペットを飼ってよかったです。（女性）

ペットを飼うことによって、子供たちや自分達家族全員が思いやりの心を持つことや、命の大切さ、家族の大切さ、団結を学ぶことができました。

ペットの死を経験して、悲しさの乗り越え方も学びました。（女性）